

壺川校区 Kosen

日頃の練習の成果はいかが

10月26日(土)、壺川地域コミュニティセンターでふれあい文化祭がありました。各団体が日頃の成果を発表するステージイベントや、校区の歴史や文化を歌詞にして作成した「壺川ふるさと音頭」の歌と踊りの披露がありました。最後に、校区で収穫した野菜で作ったカレーを皆でいただきました。



黒髪校区 Kurokami

校区から始める国際交流

「日本のよさ、熊本のよさを知ってもらいたい」と留学生が多く住む黒髪校区で、11月2日(土)に、食文化交流会を実施しました。黒髪地域コミュニティセンターで、韓国・中国・オランダなどからの留学生と地域の方々と一緒に、「巻き寿司・いなり寿司」を作りました。また、各国の民謡や国歌を披露し、楽しい交流会になりました。



碩台校区 Sekidai

校区の絆で、ドウカイドウカイ

藤崎八幡宮の秋の例大祭の一番古い奉納団体として歴史をもつ鳥居基の碩台校区は、町内自治会や地域住民で結成した碩台校区奉賛会で今回も奉納しました。校区から総勢270人の参加があり、中には家族全員で参加したところもありました。月に2・3回の練習などとおし、年を重ねる毎に、校区の絆も深まっています。



白川校区 Shirakawa

もちつき・ふれあい校区の輪

1月19日(日)に白川校区青少年健全育成協議会、校区まちづくり委員会、校区自治協議会、小学校PTA共催で「第16回ふれあいまちつき大会」を開催しました。もちつき会場では、ちゃんかけごまなどで世代間交流をしました。また、子ども達と消防自動車との綱引きで力比べを2回行い、どちらも子ども達が勝ちました。



大江校区 Oe

立田山で健康ハイキング

大江校区体育協会主催の「歩こう会!立田山ハイキング」を12月1日(日)に行いました。当日は子供50人、保護者、地域の方50人が参加し、10時前に大江小を出発、11時半に立田山お祭り広場に到着しました。「宝探しゲーム」などを楽しみ、昼食には、おいしい「豚汁」をいただくなど、楽しい一日を過ごすことができました。



城東校区 Joto

きれいな街は私たちがつくります

国際会議や秋の観光シーズンを控えた9月7日(土)に、城東校区防犯協会、熊本市防犯モデル地区推進委員会、大学生の防犯若武者ベアーズ、警察などが協力して、銀座通りなどの繁華街で、柱などの落書き消しをしました。シールやガムを取ったりと大変でしたが、綺麗になった後は、皆すがすがしい気持ちでいっぱいでした。



白山校区 Hakuzan

がんばってついたら、丸めたよ

12月21日(土)に白山校区青少年健全育成協議会主催、小学校PTA、校区社会福祉協議会など各種団体共催・協力で、もちつき大会を開催しました。当日は、約400人が参加しました。子ども達が順番でつき、丸めて作ったおもちを皆で食べました。また、いつもお世話になっている「子ども避難の家」におもちを配りました。



出水校区 Izumi

カルタ作りで魅力再発見

校区子どもネットワークの役員達が中心となり、「校区カルタづくり」を進めている出水校区で、11月21日(木)にワークショップを開催しました。読み札の素案づくりのため、皆で校区の地図を見ながら何があるか話し合い、シールや付箋を貼ったりし、皆で盛り上がりました。今後も、校区の歴史・文化の勉強会やまち歩きなどをし、校区カルタを作っていきます。



帯山校区 Obiyama

普段着の成人式は和気あいあい

「普段着で気軽に集まろう」の呼びかけで成人の日の前日の1月12日(日)に帯山小学校卒業生35人が集まりました。第一部の式典は卒業時の担任の先生の挨拶、成人代表の決意表明など保護者同席でありました。第二部は、外に移動し、まちづくり委員会や保護者が用意した焼きそば、ぜんざいなどを食べながら、先生と一緒に時間を忘れて語りあいました。あるクラスでは、タイムカプセルを掘り起こし懐かしさもひとしおでした。



帯山西校区 Obiyamanishi

みんなで手づくりクリスマス

12月22日(日)に帯西応援隊主催で「帯西クリスマス」を帯山西小学校で開催しました。第4町内と第5町内の老人会の方も協力し製作したペットボトルのエコキャンドルで、運動場に大きなクリスマスツリーを作りました。暗くなってからは、帯西小合唱部の歌の披露や、震災後交流をしている気仙沼市の階上(はしがみ)小学校との交流の発表がありました。



出水南校区 Izumiminami

大人も子どもも元気を学ぶ

11月10日(日)出水南校区健康づくり推進協議会主催で健康レクリエーション「みんなで遊ぼう」を開催しました。大人と子どもと一緒にゲームや体操を楽しみながら体を動かし、いろんな世代の交流を深めました。健康づくりブースの体内年齢測定では、若い世代の方ほど課題の多い結果となり、生活習慣を見直すきっかけになりました。

